

令和7年度 学校評価表(定時制課程)

＜令和7年度の重点目標＞
 1 学習意欲の向上と確かな学力の育成
 2 体験的な学びの充実及びふるさと貢献活動の推進

自己評価基準 よくできた→ 4 できた→ 3 あまりできなかった→ 2 できなかった→ 1

兵庫県立赤穂高等学校 定時制課程

領域	評価の観点	担当	評価項目	目標	実践目標	成果と課題	令和7年	令和6年	令和5年	改善の方策	学校関係者評価
学校運営	学校開かれたづくり	総務	魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会や家庭との連携を密にし、魅力ある学校づくりを進める。 工夫しながらわかりやすい情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の様々な機関との連携を図った取組を行う。 地域から本校の教育活動への理解を得るために、学校だよりを定期的に作成し、関係各所へ配布(配信)する。 学校行事のあるごとにブログ等を通じて常に情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や課外活動、ボランティア活動等の様子を、学校通信「赤定だより」で定期的に情報発信することができた。 ボランティア活動においては、これまでの活動を評価していただき、新しい活動へのお声がけをいただけるようになった。 Web上での随時更新の徹底、また、スマートフォン用のページを充実させることが必要である。 	3.2	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と活動する機会を増やし、交流する中で赤定のさまざまな取組をPRする。 ボランティア活動では、周りから依頼を受けるだけでなく、赤定主体の活動を企画ができるようにしていく。 HPやブログのコンテンツの充実を図り、報道機関への情報提供をこまめに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生が企画実施するバスツアーがバージョンアップしてきていて良い。 生徒がやってみたいことを考えるといいのではないかな。
	生徒指導	生徒指導	基本的な生活習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 責任感の育成やルールを守り、協調する精神を育てる。地域社会との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個人面談したり、家庭連絡や家庭訪問等を行い、保護者と連携して生徒の指導にあたる。 授業やHR活動、保健だより等により、食生活に正しい知識を身につけるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を密に行うことによって、生徒の指導に生かすことができた。 個人面談を数多く行うなど、さらに細やかな指導を行うことが必要である。 	3.6	3.5	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談等を計画的に実施する。 保護者との連携を深め、生徒状況を把握する。 	
			社会人としての規範力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> SNSの安全な使い方を理解させる。 マナー・モラルについて生徒の力で考え、スマホ依存を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会等を実施して、情報モラルについて正しく理解させ、予防する能力や態度を育てる。 スマホ依存の防止、SNSの使い方等、生徒会を中心としてルールづくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会等を実施し、情報モラルに対する意識を高めることができた。 講演会の内容を活かして、日頃からの指導やルールづくりなど、取組を着実させることと、実状に合わせた改善が必要である。 	3.5	3.5	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会を通じて、情報モラルについて学び、スマホ使用上の意識を高める。 生徒主体のルールづくり、啓発活動を進めていく。 	
		いじめ防止に対する取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止、未然防止、早期発見、早期対応、相談体制の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ基本方針に基づく取組の点検を行い、生徒の実態に応じた指導を行う。 アンケート調査の工夫や生徒、保護者等との情報交換を密にして、いじめの防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ基本方針に基づき、生徒の実態に応じて取り組むことができた。 いじめはどの学校においても起こりうるものとの認識で取り組むことが必要である。 	3.7	4.0	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が相談しやすい関係づくりを行う。 迅速な情報共有、早期対応の体制を構築する。 		
		保健	キャンパスカウンセラーの活用を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 個人相談を通して、心に悩みを持つ生徒のサポートを図り、学校生活を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学時に全員カウンセリング体験を実施し、生徒とカウンセラーの繋がりを作り、相談できる場があることを周知する。 教職員研修を実施し、教員の資質の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に1年生全員にカウンセリング体験を実施し、カウンセラーとの関係を築き、相談しやすい環境づくりができた。 職員対象の研修会を実施し、生徒支援及び生徒理解を深めることができた。 	3.7	4.0	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、カウンセリング体験を行い、問題の早期発見に努める。 他校の研修会も参考にし、継続して職員研修を実施する。 	
	進路指導	進路	進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適正等を正しく把握して適切な進路指導を行う。 平素から自己を見つめ、将来への目標を持ち、早期に進路目標を設定するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会や外部機関と連携して生徒の進路意識を高める。 学年毎に職業体験を実施し、進路を決めていく上での参考とさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な専門学校や企業等を招いて進路説明会を開催することができた。 進路指導について校内外で連携をとりながら進めることができた。 生徒のキャリア意識を高めること、また履歴書等の書類作成や面接対策などの早期準備を図る。 内定受諾等進路決定の重みや影響について周知を徹底する。 	3.5	3.6	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 早期から生徒のキャリア意識を高め、情報収集し、夏休みの進路活動の充実化を図ることで、高卒求人応募の日程に余裕が持てるように指導する。 進路決定の重みについて家庭への周知を徹底する。 進学指導においては、個々の志望状況に合わせてサポートする。 	
	教職員の資質向上	教頭	教職員の意識改革を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の使命を自覚し、専門性の向上や、指導力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教壇に立つ教育者としての自覚を高め、外部の研修会等へも積極的に参加し自己研鑽に努める。 公開授業週間を実施し、各教員がテーマを持って資質向上に努めるよう職場風土を醸成する。 校内研修・生徒情報交換を通して生徒育成のための目標を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の研修により、各教員が自身や学校が抱える課題について考えることができた。 公開授業週間を設定することで、各教員がテーマを持って学習指導を行うことができた。 教科指導についてだけではなく、学校全体の在り方を各教員の意識を高め、さらなる指導力の向上を目指したい。 	3.3	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が主体となる校内研修を行い、外部の研修会等にも積極的に参加して指導力を高める。 生徒の進路希望に応じた指導方法の確立を行う。 情報交換を通して生徒の実態を的確に把握し、学校全体で生徒のサポート体制を構築していく。 	
	危機管理体制の整備	総務	安全で安心な学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 学校での具体的な危機管理の取組について、保護者や地域の人々の理解を得るとともに地域や関係機関と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全日制や地域との連携も考慮し、危機管理マニュアルを定期的に見直す。 避難所運営についての対応を考えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> HPやメール配信システム(ライデンスクール)を活用して安全で安心な学校づくりに取り組んだ。 全日制や地域と連携した危機管理マニュアルの継続的な見直しが必要である。 	3.3	3.5	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 防災士の方々をはじめ地域住民の方々と連携し、より実態に即した危機管理マニュアルの見直しを行う。 全日制や地域と連携し、避難所運営についても考える。 	

領域	評価の観点	担当	評価項目	目標	実践目標	成果と課題	令和7年	令和6年	令和5年	改善の方策	学校関係者評価
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	教務	創造力を高め、生涯学び続ける意欲ある生徒を育成する。	・創造力や自ら考える力を育て、生涯にわたって学び続けることのできる能力や態度を養う。	・各教科において、基礎・基本の充実をめざしたシラバスおよび年間指導計画を作成する。 ・生徒の学習状況を的確に把握し、授業にフィードバックする。	・各教科において年間指導計画を作成し、それに基づいたシラバスを配布した。 ・公開授業週間を設定し、教員同士による相互評価による教科研修を実施することで、授業改善に努めた。 ・生徒による授業評価を行い、目指す生徒像と実態を照らし合わせ、指導方法をよりよいものにしていくことが求められる。	3.2	3.7	3.5	・計画およびその実践から授業内容等の見直しを行い、授業改善を行う。 ・生徒の実態に合わせた授業展開ができるよう、継続して実態把握に努める。 ・「マナトレ」を活用した学習状況の把握を試み、全教職員で共有する。	
	個に応じた学習指導の徹底		生徒の多様な個性の伸長を図る。	・授業において、個に応じた丁寧な指導に努める。	・生徒の多様化に対応して、個性の伸長を実現するための授業改善を図り、実践につなげる。	・各教科において、生徒の学習状況の恒常的な把握に努めた。 ・授業改善についての情報共有を進め、学校全体での取組を展開することが必要である。	3.5	3.6	3.5	・他校での実践事例等も参考にして、生徒のニーズに合った授業改善を図る。 ・少人数制やチームティーチングを活用した授業を生徒の実態に合わせて	
	総合的な探究の時間		教職員の協働体制を確立する。	・生徒のニーズに応じたものや、学年ごとに異なる有意義な探究活動ができるような講座を展開する。	・学校全体として体験学習や探究活動を展開できるように教員間の連携を図る。	・総合的な探究の時間を中心に、全教科で体験学習や探究活動を取り入れている。 ・総合的な探究の時間にスポットを当て、探究活動を進めていくための力をどう伸ばしていくかを学校全体で共有し、実践していくことが必要である。	3.3	3.5	3.7	・体験的な学習活動をどう探究的な学習活動につなげていくか、また、設定した目標への達成度を適切に評価するために内容及び方法を体系化し、実践していく。	
課題教育	防災・安全教育	総務	地域社会・関係機関と連携を密にした防災訓練を充実させる。	・防災意識を高め、安全対策の徹底をはかり、自己の生命を大切にし、その上で助け合い、共に生きる心を育てる。	・避難訓練、防災教室、職員研修を実施して、生徒や教職員の防災・安全に対する意識を高める。 ・避難所運営、心肺蘇生法などの緊急時に必要となる知識・技能を学び、危機に対応する力を身につける。	・地域防災士の会による防災教室を実施し、災害時の対応力を高めることができた。 ・火災、震災、津波を想定した避難訓練を行い、災害ごとの対応について、実施することができた。 ・阪神淡路大震災の記憶を風化させぬよう、今年1.17が土曜日のため前日の金曜日ではあったが学校全体で追悼行事を執り行うことができた。	3.5	3.5	3.5	・危機管理マニュアルを踏まえてより実践的な防災訓練を実施し、さらに防災に対する意識を高める。 ・災害時に各職員が臨機応変に対応できるように、研修等で防災知識の共有化を図る。	・引き続き持続的な防災教育を、一緒に取り組んでいくことが大切だと思う。
		保健	生徒の実態に即した学校保健計画等を立案・実践する。	・あらゆる機会をとらえて基礎的な保健の知識理解を図り、生徒が安心して学校生活を送れるよう努める。	・保健室を休養、保健指導の場としてだけでなく、生徒支援や生徒相談の場としても活用できるよう努める。	・感染症予防対策として掲示物や保健だより等で感染症予防についての指導を行った。 ・生徒からの相談を職員で共有したり、カウンセラーにつなげたりすることができた。	3.5	3.7	3.5	・感染症が校内で蔓延しないよう、引き続き感染症対策に取り組む。 ・研修会等に参加しカウンセリング力を高める。 ・生徒への声掛けを積極的に行うとともに、相談しやすい環境づくりに努め	
	人権教育	人権	人権についての基本的な理解を深める。人権学習への意欲を高める。	・学校の教育活動全体とおして、人権問題解決に向けての意識や生活態度を養う。	・授業や学校行事などを通じて、互いの良さを認め思いやる心を育む。 ・さまざまな人権課題について興味を持ち、人権意識を高める。	・授業やLHRの活動の中で、生徒が人権に関わる内容について考える時間をもつことができた。 ・学校の教育活動全体および生徒を取り巻く環境全体を通して、生徒の人権意識がより高められることが望ましい。	3.2	3.6	3.4	・授業、LHR、学校行事やボランティア活動で、身の回りにおける人権に配慮した活動を行う。 ・学校行事やボランティア活動等を通して、学年を越えた結びつきや思いやりが育まれるよう配慮する。	
		人権	地域団体とも連携し、人権意識を高める。	・赤穂市民促進協議会など地域団体と連携することにより、人権教育の充実を図る。	・地域団体や異校種間で意見交換を行い、学校での人権啓発に関する活動につなげる。	・西播磨地区高等学校人権教育研究協議会の実践記録集にて、本校の取り組みについて紹介した。 ・赤穂市の市民促進協議会にて本校の取り組みを発表することができた。 ・生徒を取り巻く環境全体を考慮し、学校教育の中で可能な人権教育の充実を一層考慮する必要がある。	3.0	3.4	3.1	・協議会などで異校種間での意見交換を引き続き行っていく。 ・引き続き、職員間での生徒の実情についての情報交換と、望ましい教育活動のあり方についてのより一層の検討および家庭との連携がなされることが望ましい。	
	情報教育	情報	情報リテラシーの向上を図る。	・教職員の情報リテラシーの向上を図り、業務の効率化や生徒への指導に生かす。 ・情報機器を使うことの危険性を知り、それをふまえた上で活用できるようにする。	・ICT機器活用の研修会を実施し、校務や授業での積極的な機器活用を促進する。 ・アップデートやセキュリティソフトの重要性や、危険なことへの対応方法などを知る機会を作る。	・情報機器の取り扱いや情報教育に関する研修会を随時実施した。 ・ICT機器を活用した授業を効果的に行うための力量を教員一人一人がつける必要がある。	3.5	3.5	3.5	・職員研修会の実施。 ・校内通信ネットワーク等、ICT機器を活用した授業について意識を高める。	
体験活動	総務・教務	ボランティア活動を推進する。地域の伝統文化を体験的に学ぶ。	・ボランティア活動や福祉体験を通して、社会貢献の重要性を学ぶとともに、自己有用感を育む。 ・伝統文化に対する理解を深め、豊かな人間性を涵養する。	・赤穂義士祭や清掃活動、福祉体験等、積極的なボランティア活動への参加を促し、地域貢献を行う。 ・地域の伝統文化(赤穂緞通)にふれさせることで地域に生きる自覚を持たせる。 ・わらじ作りや義士祭パレードに参加し、伝統文化に触れさせ、理解を深め、文化を担う一員としての気持ちを持たせる。	・さまざまなボランティア活動や福祉体験から地域社会への関わりについて考える機会を設定することができた。 ・赤穂特別支援学校と合同でイベントを行うことで、協働して活動する機会を得ることができた。 ・伝統文化を体験することで地域に対する理解を深め、地域で活躍できる人をより育成する必要がある。 ・福祉体験活動のつながりから、新しいボランティア活動を行う機会が与えられた。	3.6	3.7	3.9	・現在取り入れているさまざまな体験的な活動を今後も継続して取り組ませる。 ・地域や年代層など、幅広く交流の場を設け、多くの人と接する体験をさせる。 ・生徒の実態に合わせた内容の充実化に努める。 ・新しい活動などを積極的に取り入れるとともに現在取り入れている体験的	・ボランティア活動に様々な参加されていてすごい。 ・生徒が自発的に活動する面が見えてきている。	